

## 『多喜二奪還事件』の文学的前提 訂正表

二〇〇九年九月六日

本語学文学』十一卷、二〇〇〇年）、尾西康充『蟹工船』における労働者の連帯』（『三重大学日本文学文学』二十卷、二〇〇九年）

表紙裏 菊池敏清の略歴 生年「1908年」↓  
「1909年」

19ページ下段10行目 「回想」に（注2）を加える。

8ページ下段最後の行 「第十三代当主」↓「第十二代当主」

注2……村山知義「多喜二の思い出」から（『東京芸術座公演パンフ』所収、一九六八年）、本書92ページ参照

10ページ下段最後の行 次ページ↓上段

19ページ下段11行目 「中野の年譜」に（注3）を加える。

12ページ下段最後から2行目 「全雑誌」↓「全国的雑誌」

注3……『中野重治全集別巻』（一九九八年）

19ページ上段最後から7行目 「地方都市での講演という類似性」に（注1）を加える。

92ページ下段最後の行 「一晚」の後に「、『前橋につれていかれ』の『前橋』は『伊勢崎』を挿入。

注1……岡村洋子「三重近代文学研究序説―『戦旗』防衛巡回講演会をめぐって―」（『三重大学日

（長谷田直之）